



間隔を空けながらも、久々の活動を楽しむアネモネ会の皆さん



### 新しい施設利用基準を適用

各施設の使用基準はこちら

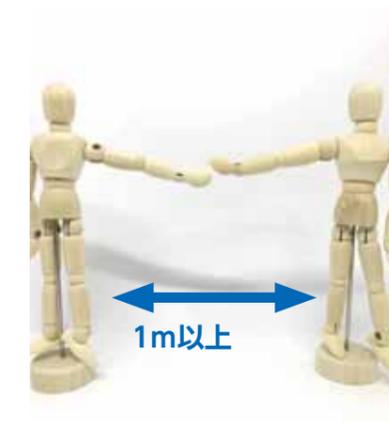


# 新しい生活様式がスタート

## 一人ひとりが基本的な感染対策を



マスクの着用



間隔の確保



手洗い・消毒

公共施設の貸館が再開し、生涯学習センター「友楽亭」でも生涯学習活動を行う自主グループが活動を始めました。

編み物を中心に長年活動する「アネモネ会」も6月4日から活動を再開し、この日は講師を含め9人が約3か月ぶりに集まりました。

閉館中は、会員それぞれが自宅で活動していましたが、顔も見えず、周りの進捗もわからない状態で不安だったのが、みんなで集まるのを楽しみにしていたそうです。

活動再開にあたり、生涯学習センターの石畝所長から、マスクの着用、人との間隔を1m以上空ける、活動は2時間以内などの施設使用基準が細かく説明されました。

会員の皆さんは、施設使用基準について「しゃべりにくい」「厳しく感じる」と戸惑いを感じていましたが、「施設が閉鎖され、会の活動が停止すると生きがいがなくなってしまう。お互いに気を付けながら、この場を守っていききたい」と施設利用の制限に理解を示していました。

福井県の緊急事態宣言が解除されてから約1か月がたちました。県内では、休業要請がすべて解除され、6月1日からは学校も再開するなど、徐々に以前の暮らしに戻りつつあります。

しかし、新型コロナウイルス感染症の脅威は、まだ取り除かれたわけではありませんが、日本各地では、クラスターの発生や感染者数の増加などが起きており、いつ私たちの身の回りで発生してもおかしくない状態です。

以前のままの生活様式では、自分を含め家族、地域を新型コロナウイルス感染症から守ることはできません。

新しい生活様式を守り、少しでも感染症のリスクを減らしながら、以前の暮らしを取り戻していきたいと思います。



### ジオアリーナの消毒作業に協力



6月1日、施設の貸し出しを再開したジオアリーナで、部活動を再開した勝山高校バドミントン部の部員が施設の消毒作業に協力しました。

ジオアリーナでは1日3回、館内の手すりやドアノブなどを消毒しており、当面の間、部活動のある日は開始前に部員の皆さんに手伝っていただきます。

部員たちは、手分けして階段やランニングコースの手すり、客席のベンチなどをアルコール消毒液をかけた布で丁寧に拭いていきました。

### 施設利用者の声



勝山市スポーツ協会 平野 慶一会長

大変な状況下ですが、元氣！本氣！やる気！三つの氣の力で、コロナに打ち勝ちましょう。

自宅でできる簡単な運動を習慣化する事で健康と体力維持に努め、活動が全開になる日まで、一意奮闘にてチーム勝山で頑張りましょう。



勝山高校バドミントン部 木田 悠斗主将 (3年)

4月から約2か月ぶりの部活は楽しみでした。休館中は個人でランニングや筋トレ、壁打ちをしていました。

3年最後のインターハイを目指していたのがなくなり残念ですが、国体があるかもしれないので、前向きに頑張りたいと思います。

### 学校の再開にあたって



勝山市教育委員会 教育長 梅田 幸重

小学生の集団登校の光景に、ようやく学校が再開できたことを実感しています。保護者の皆様には、長期間の休校にご協力いただき有難うございました。

学校では、先ず感染防止対策に最善を尽くします。そして、子どもたちが早く学校のリズムに慣れ、授業の遅れを取り戻せるよう取り組みます。中学校の部活動も徐々に進めていきます。

ただ、今年度は学校行事の精選や夏休みの短縮など、例年と異なる学校運営を余儀なくされます。そうした中であっても、児童生徒が元氣はつらつと学校に通い、確かな成長を見せてくれるよう尽力します。

関係の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

### ワンチームでともに



勝山市議会 議長 松山 信裕

新型コロナウイルス感染症が広がる中、当市で感染者が発生していないのは市民の皆様のご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

市議会では、3月議会で策定した対応要領に基づき、4月早々に災害対策支援本部を立ち上げ、県内でも唯一の対応をしてきました。

理事者との協議では市民からの要望や意見を述べ、スピーディかつ的確に対応策を講じ、本来は議決を要する「かつやまっ子元氣応援臨時給付金」などの専決処分を認めたほか、市議会提案の高校生以上への支援策「特別貸与奨学金」枠の創設、期末手当の2割カットなどを実現しました。

今後もよりよい支援を行うため、皆様のご意見をお聞かせください。ワンチームで頑張りましょう。

※記事の情報は6月8日現在のものです